

令和4年度 第7回 若葉区区民対話会概要
「選挙への関心を高め投票率を上げるには」
(東京情報大学)

1 区長挨拶

2 自己紹介 (学生)

3 意見交換

※ (選) = 選挙統計班主査

(区長) どうすれば選挙に行こうと思うか、意見がききたい。こんなことをしたらよいと思うことはあるか。

⇒(学生) 選挙について何も知らない、わからないから行かない人がいる。一票で何がかわるかがわからないと投票に結びつかない。学生のうちから選挙について触れる機会、学習する機会をもっと増やすのが良いと思う。

⇒(学生) 当選する人、候補者のことがわかっていない。どんな人かわからないと、政党や候補者の名前の印象で決めてしまうこともある。テレビや新聞で選挙の宣伝をしているが、若者はテレビ離れしているので、若者に見てもらうなら SNS を活用するなど発信源を増やすのがいいのでは。

⇒(区長) 国会議員の Twitter をフォローして見ているが、なかなか面白い。そういうのを見るのも面白いと思う。

⇒(選) 進んでいるところだと、東京都が若者向けに、選挙に行った写真を SNS にアップしようというような取り組みを行っている。千葉市はまだそこまではしていない。

⇒(区長) SNS は良いが、どの候補者のものをみていいのかわからない状況なのだと思う。普段から支持する人がいればフォローしてみることもできるが、一覧できるサイトのものがあるといいのかもしれない。

(学生) 小学校で模擬選挙を実施しているとのことだが、実際に候補者の名前をかくのか。

⇒(区長) 実際に候補者役の人がいて、私はこんなことをやるとみんなの前で施策の話をし、話を聞いていいなと思った人に実際に投票する仕組み。非常に有効だと思っているので、さらに広めていくのはよいかも。

⇒(学生) 中学・高校で実施していない理由は何があるのか。

⇒(選) 小学校で実施している理由は、できるだけ小さいうちから選挙に親しみを持ってもらうのが重要だと考えているため、千葉市では小学5・6年生に対して実

際の投票に近い形で体験してもらっている。中学生はないが、高校生には出前授業で講義に近い形で行っているが、件数をそんなに多くできていないのが課題。
⇒(区長) 中高生にも実施した方がいいのかもしれない。

(学生) 投票して、候補者が当選して、自分のもとに何が還元されるのかを体感できないと必要性が感じられない。それを体験するために、シミュレーションゲームを作ってみてはどうか。4人くらい候補者がいて、マニフェストを設定して、当選した人によってそれぞれこのようになったと。
⇒(区長) 結果がどうなるかは確かに知りたいと思う。確かに、良くない候補者が当選してしまい、税金ばかり使われたら意味がない。

(学生) 投票できる時間をもっと延ばしてほしい。授業にアルバイト、塾などこなしていると、なかなか区役所などに行く時間がない。電子投票みたいなものを、課題はあるかもしれないが取り入れてほしい。
⇒(区長) もう電子投票に踏み込む時代になってきたのかもしれない。実際にやっているところもあり、まだまだ課題が多いときいているが、しっかり研究していきたい。

(学生) 19歳の投票率より18歳の投票率が高い理由について、18歳は初めての投票で学校でも話題に出て意識するので、関心がある。19歳になると、投票するメリットがつかみきれない、なんでいくのかがわからなくなり、2、3回目と足が遠のくのが一因かもしれない。

(学生) この人に投票したら将来的に自分にどういったメリットがあるのかというのがわかりづらい。政策をもう少しわかりやすく発信してもらえたら、行く人が増えるかもしれない。
⇒(区長) 若者の投票率が上がってくれば、候補者もそこにターゲットをしばって、若者に受けがいい施策はどんなものかきくと考えると思う。当選すれば、若者の施策にどういったふう反映されるか自分たちで見られる。一緒に考えていかなければいけない。あとは、日頃から自分たちが困っていることをよく認識しておいて、候補者にこういうことやってほしいと伝えるような場面があってもいい。

(区長) こういうことをやってくれば投票するというようなことはあるか。
⇒(学生) 若者の投票率が低いから、高齢者向けの政策が重視されてしまう。逆に若者向けの施策を先にやってくれば投票に向かうかもしれない。
⇒(区長) 具体的にどんなことを変えてほしいか。
⇒(学生) 学費や、検定試験の受験料負担、医療費などの経済支援がほしい。また、一人暮らしの人が安心して生活できる政策を打ち出してほしい。
⇒(区長) 確かに若者向けの政策も必要だけれども、それ以外に本当に必要な部分もある。総合的にバランスよく考えられる候補者がいい。候補者に伝えられる場が

あったらよいか。

⇒(学生) 今日のような場も、大学に所属していないと参加できない。対面式は機会が限られるので、SNSなどで情報を拡散させて、声の届きにくいところへのアプローチが重要だと思う。

(選) はじめての選挙にはいったが、2回目はいかなかった人には、その理由を聞いてみたい。

⇒(学生) 初回は、初めてだから行こうと思ったが、遠方から引っ越してきて住民票も移しておらず、行けなかった。

⇒(学生) 1回目は先生や親からの声掛けが多い。2、3回目はどうしても自分から行くという意識が重要で、政策を理解しないといけないのが難しい。

(区長) より便利な投票環境の整備ということで、さきほど電子投票が挙げたが、それ以外に何かあるか。

⇒(学生) 投票のやり方は段々わかってきていると思うが、その候補者がどういうことをやるかがわからないから投票にいかない人が多いと思う。たとえば一つサイトをつくって、そこに網羅的にうたっている政策も含め候補者の情報を集める。一人ひとり調べるのは時間がかかるので、一つにまとまっているとことが重要だと思う。

(区長) 投票できる場所を大学内に設置するのはどうか。

⇒(選) 実際にやっている市町村がある。「移動期日前投票所」といって、大学を回って期日前投票できるという取り組み。ただ、若葉区でいえば若葉区に住民票がある人でないと投票できない(区外在住の人は投票できない)ので、若葉区在住の学生が多いかどうかによっても利便性が変わってくる。あとは不在者投票といって、住民票のある市町村に投票用紙を請求して取り寄せて、若葉区の選挙管理委員会が決めた場所で投票できる仕組みがある。受付場所を大学内に設置できれば、受付することは可能かもしれない。

⇒(区長) 確かに投票用紙の取り寄せは面倒くさい面がある。それをもっとスムーズにできるとよいのかもしれない。

(学生) 自分が投票したところで、一票で何が変わるかわからないのが大きい。自分が投票したから変わったことがわかるとよい。また、投票率だけではなく投票数も見たい

⇒(区長) 今度、市議選があるが、ほんの数票で結果が変わることもある。受かる人が変わると政策も変わってしまうので、やはり一票は重要。なお、投票数も市のホームページに掲載している。

(学生) 逆に、候補者をよく理解していないのに一票を安易に投じてしまって、選挙の結果が変わってしまったら嫌だという面もある。

⇒(区長) 移動期日前投票所などを活用してさらに便利に投票しやすくなって、誰に入れていいかわからない点については、一覧サイトを見る。そのような形で、しっかり候補者や政策について把握したうえで投票する、それがベストかもしれない。

(学生) はがきの裏に候補者の名前が書いてあって、投票したい人に○をつけて保護シールをはって出すことはできないか。

⇒(選) 日本では郵便投票という制度はあるが、厳格に要件が決まっている。身体障害者手帳1級保持や要介護5など、ほとんど寝たきりの人しかできない。なぜそんなに厳しいのかというと、昔はもっと条件がゆるかったが、他の人が投票するなど悪用、不正が多発したため、現在は厳しくなっている。

⇒(区長) その厳しい条件を少し緩和して、郵送でも投票できたらいいという意見と認識した。

(学生) 電子投票を他のところでは実施していると話があったが、若葉区ではなぜできないのか。

⇒(区長) セキュリティが確立しないと踏み込めない面がある。ただ、できたらいい。今の選挙の仕組みはまだアナログだと思う。

⇒(選) タブレットを使った電子投票の例が最近出てきている。ただ、自宅での投票ではなく、投票所にタブレットが置いてあって、タッチして投票する仕組みである。メリットは、自分で書く必要がないため、手の不自由な方でも投票できる。開票時に文字が読めずに無効票になることもなく、開票結果も早く出る。地方選挙では導入例がある。将来的にはマイナンバーカードを活用して、セキュリティがクリアできれば自宅でも電子投票ができるようになるかもしれない。

⇒(区長) いま、顔認証とかもできている。もっと技術が進んでもいい。現時点ではセキュリティの壁があるので、引き続き研究していきたい。

以上